

第 36 号 / 2001 . 1

(財)エンジニアリング振興協会
石油開発環境安全センター
〒105-0003 東京都港区西新橋 1-4-6 C Y D ビル
TEL(03)3502-4447 / FAX(03)3502-3265

年頭挨拶

・ 鉱山保安課長 楠田 昭二
山口専務退任、大関常務就任
・ 就任挨拶、退任挨拶
出張報告
・ 訪欧記-ロンドン・アムス・パリ・ローマ
お知らせ
Oil Spill Conference の開催など

年頭挨拶

経済産業省 原子力安全・保安院
鉱山保安課長 楠田 昭二

平成13年の新春を迎えるに当たり、謹んで新年のお慶びを申し上げますとともに、一言御挨拶申し上げます。

石油開発に携わります皆様方におかれましては、我が国経済の発展を担うべく日夜並々な御努力を継続しておられることと御推察致します。この賜物と致しまして、現在までのところ我が国の海洋石油開発におきましては大規模な災害や海外汚染事故を引き起こすことなく、安定した進捗を続けているところであります。しかしながら、海洋石油開発における潜在的なリスクの大きさは海外の事例を鑑みるまでもなく周知の事実であります。今後とも官民一体となった安全及び環境対策への取組が益々その重要性を増すものと考えます。



また、昨年につきましては、北海道有珠山の噴火に始まり、伊豆諸島における群発地震、鳥取県西部を中心とした地震等、日本列島全域において数多くの自然災害に見舞われました。こうした事例に遭遇する度に防災対策の必要性を強く認識させられるわけではありますが、自然災害はもちろんのこと、一般産業におきましても事故災害を生じさせないため、より一層の産業保安施策の重要性を認識する次第であります。

21世紀を迎えまして、行政改革の推進の一環として施行された中央省庁等改革基本法により省庁再編が行われまして、我が通商産業省においては、平成13年1月6日より経済産業省となったことに伴い、新体制による業務が始動したところでございます。こと保安行政に関しましては、資源エネルギー庁に附属する原子力安全・保安院という新たな組織において、原子力安全に加え電気・ガス保安、鉱山保安等の産業保安が一元的に推進されることとなり、同じ経済産業省の組織の中で、規制する側と推進する側を明確に分けることにより、より透明かつ効率的な行政を目指すこととしております。

これに伴い、当課におきましても従来の環境立地局鉱山保安課から原子力安全・保安院鉱山保安課に変更されることとなりました。旧来と同様、宜しくお願い申し上げます。

鉱山保安に関する平成13年度政府予算案及び税制改正の状況については、ほぼ要求どおりセットすることができました。引き続き各種の施策ツールを活用しつつ、稼行鉱山に対する監督指導、海洋における石油・天然ガス鉱山の保安技術及び海洋生態系に及ぼす影響等についての調査研究等の施策の推進に全力を尽くしてまいりたい所存であります。

以上、新年を迎えるにあたり、私の所信の一端を申し上げます。本年も、石油開発に携わる皆様方におかれましては、鉱山保安施策に関する一層の御理解、御協力を賜りたくお願い申し上げますとともに、皆様の一層の御発展、御活躍を心から祈念致しまして年頭の御挨拶とさせていただきます。

山口専務理事退任 大関常務理事就任

平成 12 年 11 月 30 日を持って、山口健氏が当協会専務理事・石油開発環境安全センター所長兼地下開発利用研究センター所長を退任いたしました。山口専務理事の後任として平成 13 年 1 月 1 日付けで大関真一氏が当協会常務理事・石油開発環境安全センター所長兼地下開発利用研究センター所長として就任いたしました。

山口専務理事には長年にわたって協会運営に携わると共に、当センターを設立し、設立後は所長としてセンターの発展にご尽力いただき厚く御礼申し上げます。

新たに大関常務のもとで力を合わせ関連業界の更なる発展に尽くしてまいりたいと存じますので会員各位の一層のご支援、ご協力を賜りたくお願い申し上げます。

就任の挨拶

大関 真一

この度、平成 13 年 1 月 1 日付けでエンジニアリング振興協会常務理事に就任致しました。

山口健前専務理事の後任として、石油開発環境安全センター及び地下開発利用研究センターの所長を引継ぐこととなりました。

小職は、1973 年 4 月に通商産業省に入省し、これまで主として石油、原子力、石炭等のエネルギー供給分野や鉱山の保安、環境対策の分野を経験してまいりました。

昨年 12 月に欧州より帰国するまでの約 3 年間は、日本貿易振興会（ジェトロ）ウイーンセンターの所長として、オーストリア及び周辺の中東欧諸国（スロベニア、クロアチア、ブルガリア等）関連の事業展開や EU の東方拡大に伴う貿易や投資関連の制度改革情報の収集などに従事しておりました。

欧州の経済は、米国ほどの高い成長率には及ばないものの、共通通貨ユーロの導入による域内取引の活発化、あるいは産業技術や環境分野でのグローバルスタンダードにおけるリーダーシップの一層の発揮など、堅実な歩みをしている印象を持ちました。また、ハンガリーやポーランドに代表されるいわゆる中欧諸国の復興も西欧経済の成長のドライビング・フォースの一つと実感しました。

小職は、通商産業省在籍の 27 年余りの間、資源エネルギー庁石油部開発課海外開発班長や石油公団計画第一部調査役で石油開発プロジェクトに関わりました。また、環境立地局鉱山課長や北海道鉱山保安監督部長の際には石油開発に伴う保安対策、環境保全に関わりましたので、今回の仕事も多少の“土地勘”は持っておりますが、初心に返り、基礎固めから取り組んでまいりたいと思っておりますので、よろしくご指導頂きたく存じます。

退任の挨拶

山口 健

エンジニアリング振興協会設立の年、昭和 53 年 10 月から昭和 55 年 6 月まで事務局長として、その後、再び当協会に赴任いたしました昭和 59 年 4 月から今日までの長期にわたり、会員企業の皆様をはじめ関係機関の方々から多大のご理解とご協力を頂いて斯界の発展に努めさせていただいたことを非常にありがたく思っております。

この間、平成 3 年 11 月には、海洋石油開発に伴う安全の確保と環境の保全を目的に研究・開発を実施、推進する機関として、石油開発環境安全センターを設立することができました。

センター発足当初は、プラットフォーム撤去のための「海洋環境影響調査」、油井の暴噴を予測、制御し、万全の対応を実施するためのエキスパートシステムを開発する「石油鉱山保安対策調査」などを皮切りに調査研究を進め、平成 4 年には大規模流出油事故が発生した場合に流出油の監視、リアルタイム拡散予測、防除計画を立案する機能を持った「リアルタイム大規模流出油監視・予測システムの研究」に着手しました。この研究はわが国に大規模な被害をもたらした日本海のナホトカ号流出油事故発生 5 年前であり、密かにその先見性を自負したことを思い出します。

最近では、石油開発の技術を応用した分野へも進出するようになりました。平成 5 年度からは地球温暖化の主因とされる CO₂ を大量かつ効果的に大気中から隔離する手段の一つとして「CO₂ 地中処分技術調査」を行っており、本年度からは国の委託を受け地下圧入の実証実験を担当することとなっています。

わが国にとって石油の安定供給は国の根幹をなすものであり、その一翼を担う当センターの役割の重要性に変わりはありません。さらに地球環境分野でも大きく貢献することが期待されています。今後、皆様のますますの御発展を祈念いたしまして退任の御挨拶とさせていただきます。

出張報告

訪欧記 ロンドン・アムス・パリ・ローマ
(株)日立エンジニアリングサービス 吉永洋一

昨秋 10 月 8 日から 20 日にかけて、NEDO/PEC からの受託研究「石油貯蔵設備の信頼性評価技術の研究開発」の一環として、欧州の状況を調査する機会を得ましたのでその旅の様子をご報告致します。

今回の調査団メンバーは、SEC の森田副所長ほか、石川島検査計測、IHI、鹿島エンジニアリング、日立エンジニアリングサービスからの総勢 8 名で、訪問先は TWI (ロンドン)、Shell Global Solutions(アムステルダム)、APAVE (パリ)と、ローマで開催された WCNDT(非破壊検査技術国際会議)の 4 ヲ所です。

最初の訪問先となった TWI は、もともとケンブリッジ大学の溶接研究所で、企業法人として独立して既に 50 年の歴史を持つ世界的な材料、接合技術の研究機関です。今回の訪問で、欧州における石油貯蔵設備の保守の状況が良く把握できました。欧州では日本の様な法規制によるタンク開放検査は義務付けられておらず、ユーザーが自主的に設備を管理しています。したがって安全性の確保は勿論ですが、保守の合理化や費用の削減に対して極めて熱心に取り組んでいる事が良く理解できました。

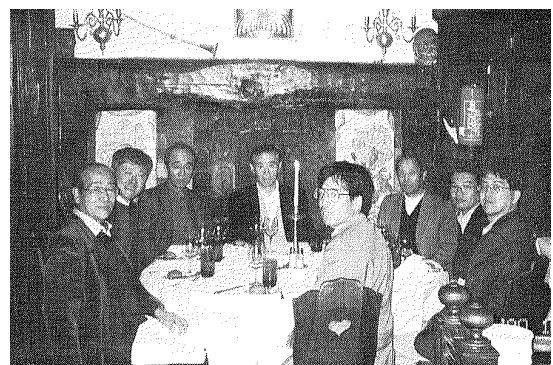
TWI はケンブリッジ郊外の新興工業団地 Granta Park という公園のような環境の中にあります。我々が宿泊したロンドン下町のホテルからはバスで約 2 時間かかりました。あいにく 10 月のロンドン、ケンブリッジは厚い雲に覆われ、日本の秋晴れのような天候は望むべくもありません。冷たい小雨模様でしたが、暖かい部屋のテーブルで傾けるジョッキもなかなかのものでした。

翌日、次の目的地アムステルダムに向けてヒースロー空港から出発しました。約 1 時間のフライトでスキポール空港に着きましたが、途中、落雷があり機内は一瞬どよめきました。何事も無く、皆ホット胸をなでおろしたものです。

訪問先の Shell Global Solutions は Shell の材料や、石油関連設備の検査・保守技術を受け持つ会社です。今回の目玉と考えていた訪問先であり、AE タンク試験の推進責任者 Dr. Loo さんとの質疑で得た情報は我々調査団メンバーにとって極めて有意義なものとなりました。Shell が AE 法によるタンク底板腐食評価試験に取り組んだ第一の理由は、その検査費用が従来の開

放検査に比べて 1/10 以下にできるからです。診断法として信頼性に若干問題があるにせよ、この 10 年間に約 2000 基を超える検査実績を作ってきたとのこと。検査合理化にける彼らの意気込みの凄さを痛感した次第です。

Shell Global Solutions はアムステルダム中央駅前を流れるアイ川対岸の Shell 本社構内にあります。そこへの一番の近道は駅前の船着場から数分おきに出る小さなフェリーで川を渡る事です。宿が中央駅正面にあるホテル Victoria でしたので、我々もこのフェリーを利用しました。まさにアムステルダムは水の都で市内の至る所に水路があります。Shell 訪問の朝、散歩がてら街を歩きました。幾つもの水路にかかる橋を渡って、アンネの家に立ち寄りしました。アンネが過ごした屋根裏部屋は 10 畳ほどで予想していたよりずっと広く感じました。ここの小さな窓から、やはり家の前の運河が見えました。アンネも静かな水面を見て気持ちを慰められたのかもしれませんが。アムステルダムも小雨混じりで寒く、天候には恵まれませんでした。この日の夕食は、ジョン・ウエインや多くのハリウッドスターも訪れたという D' Vijff Vlieghen(五匹のハエ)に予約を入れました。17 世紀の建物を改装したアンティークな雰囲気のお店でした。絵や金銀のプレートが飾られた部屋で、丸テーブルをメンバ 8 名で囲み、ハウスインと温かいオランダ料理の嬉しい食事をするうち、体の芯から温まり全員大いに元気になりました。



レストラン“5 匹のハエ”にて

次の朝、スキポール空港からパリのシャルルドゴール空港に向いました。飛行機は約 1 時間で予定通り着いたのですが、今度は荷物がなかなか出てこず、荷物カウンターで飛行時間と同じ約 1 時間も待たされました。気を取り直して午後はチャーターしたバスでパリ市内を観光しました。ノートルダム寺院、2000 年のイルミネ

ーションのエッフェル塔、コンコルド広場、シャイヨー宮など市内中心部を一回りした後、地下鉄駅 Bir-Hakkeim 近くのニッコード・パリにチェックインしました。ガイドさんの説明でこの地下鉄駅は”バーあけみ”と覚えると忘れないと教えられました。確かに日本に帰ってきた今でもすぐ思い出せます。

翌朝、パリ市内にある APAVE 社を訪問しました。APAVE は仏のエンジニアリング、保守検査会社で欧州を中心に幅広く活躍しています。



2000 年イルミネーションのエッフェル塔

地、WCNDT が開催されたローマに向いました。WCNDT は 4 年に 1 度開催される非破壊検査技術の国際会議であり、今回はローマ郊外 EUR Fermi 駅近くの Pallazo dei Congressi で開催されました。54 カ国から 773 論文が提出され大いに盛会でした。

ところで、会期中の 10 月 18 日(水)には、たまた

AE タンク検査についても、この 10 年で多くの実績を持つ EPA 社と組んで実施しているとのこと。欧州では、この様に AE 試験法がかなり普及しており、検査合理化の手段として認知されつつあると感じました。

APAVE 訪問を終えて、週末には最後の目的

まバチカンのサン・ピエトロ寺院でローマ法王謁見(Papal Audience)のイベントがあり、ローマ市内のホテルは各国からの信者で超満員の状況で、我々はローマ市郊外のホテル Midas に宿泊することになりました。お蔭で会議場へは、郊外から郊外へ高速道路を使って移動する事になり、大変不便な思いをしましたが、救いはタクシー代が安いことでした。日本の半値以下という感じです。ローマは本当に遺跡が多く、世界遺産の塊のような街です。会議の合間にフォロ・ロマーノ、コロセオやカラカラ浴場などの遺跡を訪れました。ところで、ローマと言えば、やはりオードリー・ヘップバーンの「ローマの休日」です。スペイン広場、トレビの泉、真実の口と駆け足でまわりながら、映画のシーンを思い出すことができました。どこに行っても観光客が一杯で、「ローマに休日なし」と感じた次第です。

まさにヨーロッパ四都物語を体験した楽しい旅でしたが、10 月 20 日に全員無事帰国できました。次にまた訪れる機会を楽しみにしながら筆を置きたいと思います。



ローマの WCNDT 会場

お知らせ

International Oil Spill Conferenceの開催

第 17 回標記国際 Conference(2 年毎に開催)が 2001 年 3 月 26 日~29 日まで米国のフロリダ州タンパで、USCG、API、EPA 等により開催されます。会議では世界の学者、技術者等の関係者が論文発表を行うと共に最新の防除資機材の展示及び海上での防除デモンストレーションが予定されており大変興味深く、参考になります。

SEC では過去 5 回に亘り調査団を編成し、会議に参加すると共に US Coast Guard の strike-team 等の基地を訪問し意見交換を行っています。参加ご希望の方は至急 SEC までご連絡ください。

・案内 web. site <http://www.iosc.org/>

・連絡先：SEC 森田、石崎 (TEL03-3502-4447)

事務局員の異動

着任 < 12 月 1 日付 >

本 江 誠 治

技術調査部

主任研究員

電源開発(株)より出向